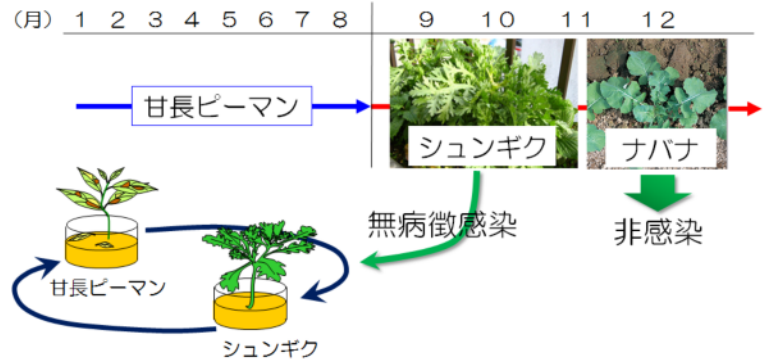


# 非宿主植物の輪作が 甘長ピーマンのウイルス病防除に効果的です

近年、県内の甘長ピーマン生産圃場ではタバコマイルドグリーンモザイクウイルス（TMGMV）による被害が多発しています。このウイルスは土壌伝染性ウイルスであるため、臭化メチル剤による土壌消毒が効果的ですが、本剤はオゾン層を破壊する物質であるため、現在は一部の用途を除いて使用が禁止されています。そこで、当センターでは臭化メチルに代わる耕種的防除方法の検討した結果、非宿主植物の輪作が本ウイルス病害の防除に効果的であることを明らかにしました。（平成21～25年度 農林水産省・委託プロジェクト研究）



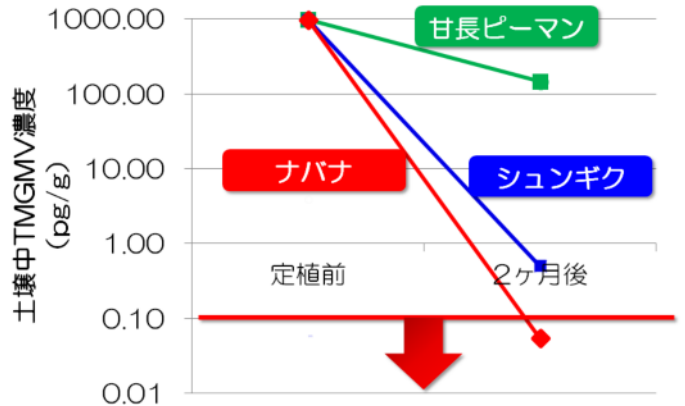
甘長ピーマンの発病葉



本県の甘長ピーマン作型の多くはシュンギクを輪作しますが、シュンギクにもウイルスが感染してしまい、土壌伝染環が生まれてしまいます。

効果的な防除方法を検討した結果・・・

土壌1g中 TMGMV含量(pg/g)	モザイク病 の発生	TMGMV感染状況 (遺伝子診断)
1000	+	+
100	+	+
10	+	+
1	±	-
0.1	-	-
0.01	-	-
0(滅菌水)	-	-



土壌1g中のTMGMVの濃度が0.1pg以下であれば発病が軽減できることが分かりました。

非宿主植物(ナバナ)を2ヶ月間定植すると土壌中のウイルス量が激減することが分かりました。

## （研究成果）

- ・ 甘長ピーマンにおいて、タバコマイルドグリーンモザイクウイルスの被害を抑えるためには土壌中のウイルス量を一定量まで減らすことが必要です。
- ・ ウイルス濃度が極めて高い圃場でもナバナなどの非宿主植物を定植することでウイルス量が減少し、発病を抑制することが可能です。
- ・ 現在、防除効果の高い土壌消毒方法についても併せて検討しています。